

令和6年度 自己評価報告書

学校法人 平成国際学園
長崎医療こども専門学校

日本語科

1. はじめに

本校は、学校運営における具体的な方針や対応の決定に関しては、運営陣と各教職員との風通しの良い環境と体制において行なっており、その中で、学校の質の向上及び教育力の向上に取り組んでいます。

本年度は、原点回帰として「教職員による自己評価」を例年以上に深掘りし、結果を基にその背景や原因を分析することとしました。また、学科・部署ごとの重点目標の設定と達成状況の確認を行ない、次回の学生による授業評価及び学校満足度評価や保護者ならびに卒業生からの評価に活かすことといたしました。

それらの結果から学校経営上の問題点を抽出し、改善に取り組み、学生及び教職員の満足度を高め、よりよい教育サービスを提供して、即戦力となる学生を社会に輩出して参ります。

2. 各評価項目について

本年度は以下の区分に分けて評価を実施しました。

本年度の重点目標

(1) 学校全体の重点目標

教育方針及び教育目標に基づき、より職業教育の充実を実践し、次の学習効果を目指す。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。
- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。
- ③学生の中途退学者の低減に努める。

自己評価

教職員による自己評価

3. 評価結果につて

(1) 重点目標の達成状況

学校全体の重点目標について目標を数値化し、その達成状況を確認しました。

- ①学生全員の就職及び進学の実現に努める。

定期的に進路指導を行い、進学希望者全員が進学いたしました。

- ②学生の国家試験及び資格取得の向上を目指す。

本年度は日本語能力試験4級以上の合格を目標に掲げて卒業年次の12月の試験まで指導に取り組んできました。

目標として掲げた各学年の合格率は次の通りです。

- | | |
|-----|-----|
| 1年生 | 35% |
| 2年生 | 80% |

それに対して実績は次の通りです。

1年生 68.1%

2年生 89.1%

③学生の中途退学者の低減に努める。

本年度の中途退学者は在籍数の0.98%でした。今後も在籍管理を徹底し、中途退学者を低減させるよう努力して参ります。

(2) 自己評価

教職員による自己評価

専修学校における学校評価ガイドライン(平成25年3月 文部科学省 生涯学習政策局)の評価項目に基づいて教職員による自己評価を行いました。問題点として捉える基準を7割(2.8ポイント)に設定し、それを下回る評価項目に関して改善に取り組んでいきます。

※具体的な評価項目と教職員による評価点は、別紙「令和5年度自己評価(日本語科)」参照。

4. 教職員からの意見・要望等への改善について

教職員からの意見・要望等が多くありましたので、来年度の学校運営に向けて、可能な限り改善を図っていきます。

5. 次年度の自己評価について

次年度の自己評価は、PDCAサイクルに基づき、組織的・計画的に行います。

(1) 教職員による自己評価

(2) 各教職員及び各学科・部署ごとの重点目標の設定と評価

6. さいごに

昨今の少子化による18歳人口の急減と地方からの人材流出が深刻な経営課題となっている。文部科学省の学校評価制度に基づく自己点検・評価は、教育の質保証と競争力強化の重要な手段として位置づけられ、評価項目は教員の資質向上、カリキュラムの社会適応性、学生支援体制、施設設備の充実など多岐にわたる。特にAI・IoT時代の到来により、従来の職業教育から先端技術に対応した教育内容への転換が急務となっている。また、社会人の学び直しニーズや多様な学習形態への対応も求められている。

多くの学校で共通する課題は、卒業後の継続支援体制の不備、学習資源の不足、教員研修体制の未整備などが挙げられる。一方、産業界との連携や学校運営の制度化については比較的良好な評価を得ています。

今後は自己評価結果を踏まえた戦略的改善により、地域に根ざした「選ばれる学校」としての持続可能な運営に取り組んでまいります。

以 上